

こども まんなか アクション

— ファクトブック —

2024年第1版
令和6（2024）年7月

こどもまんなか
こども家庭庁

CONTENTS

第1章	こども・子育てにやさしい社会づくりの現状	2
	出産や子育てにやさしい社会（「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査報告書」より）	
	こども連れで不便、理解や配慮が欲しいと感じる場面	
	（「こども・子育てにやさしい社会づくりのためのニーズ調査2023」より）	
	こども未来戦略 [令和5（2023）年12月22日閣議決定]	
	こども大綱 [令和5（2023）年12月22日閣議決定]	
第2章	こども家庭庁が取り組む「こどもまんなかアクション」	6
	こどもまんなかアクション	
	こどもまんなか応援サポーター	
	こどもまんなかアクションの様々な取組	
第3章	こどもまんなかアクションの事例	10
	居場所づくり・こども食堂	
	インクルーシブ社会	
	こども・子育て応援	
	こども・若者主体のアクション	
	体験型等こどもの育ち応援	
	共働き・共育て	
	こどもまんなか応援サポーターとの連携	

本資料に関する問い合わせ先

こども家庭庁こどもまんなかアクション推進室
e-mail : kodomokatei-action@cfa.go.jp

第1章

こども・子育てに やさしい社会づくりの 現状

Contents

出産や子育てにやさしい社会 （「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査報告書」より）	3
こども連れで不便、理解や配慮が欲しいと感じる場面 （「こども・子育てにやさしい社会づくりのためのニーズ調査2023」より）	4
こども未来戦略 [令和5（2023）年12月22日閣議決定]	5
こども大綱 [令和5（2023）年12月22日閣議決定]	5

こども
まんなか

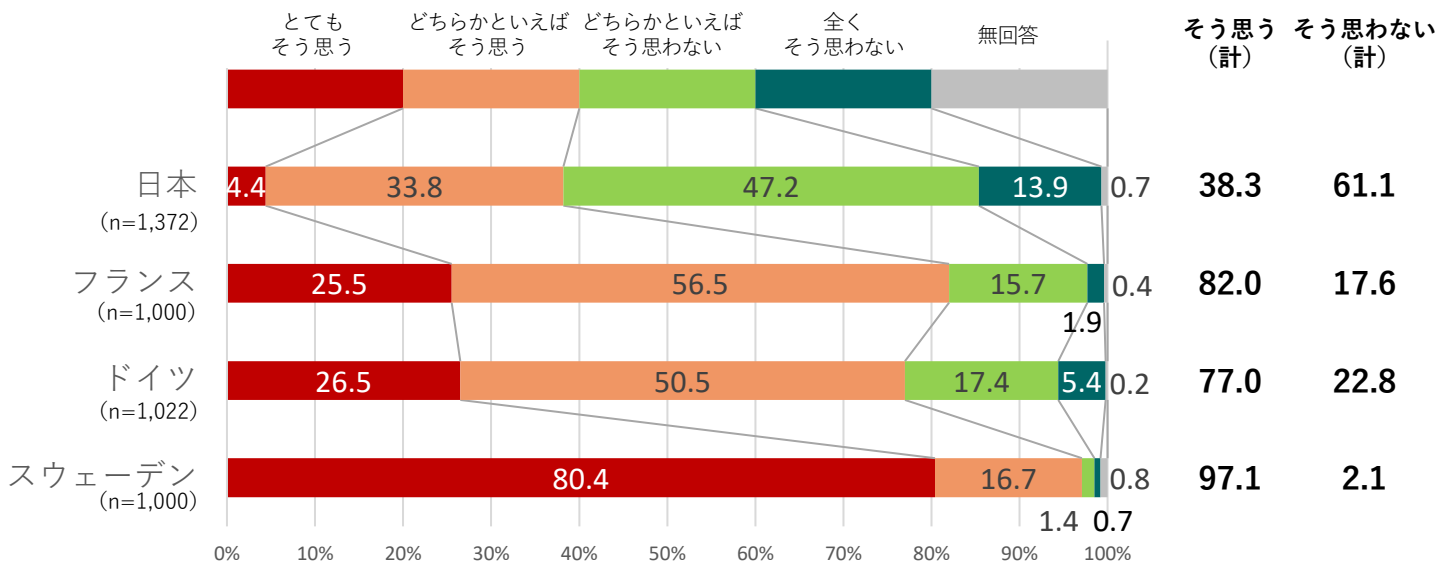
出産や子育てにやさしい社会

日本が出産や子育てにやさしい国と感じている人は少数派

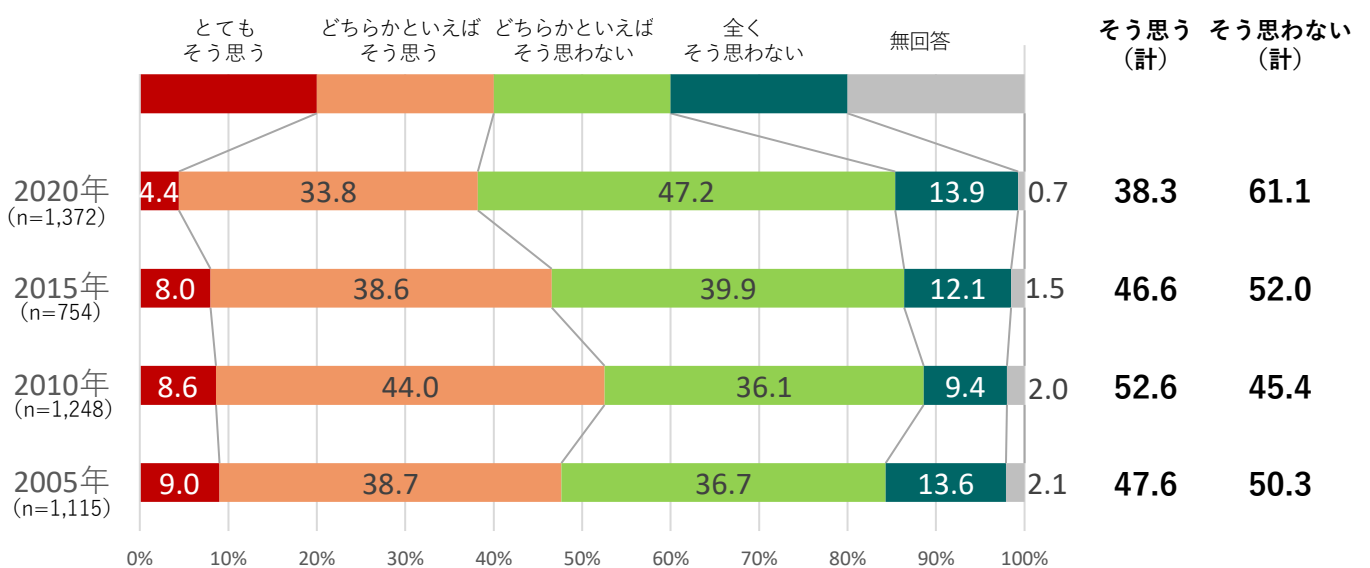
自国が子どもを生き育てやすい国か？——内閣府の「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査報告書」によると、日本、フランス、ドイツ、スウェーデンの4カ国の20～49歳の男女に質問した結果、日本では「とてもそう思う（4.4%）」と「どちらかといえばそう思う（33.8%）」を合計した「そう思う（計）」は38.3%で少数派であることがわかりました。これに対して、フランス、ドイツ、スウェーデンでは「そう思う（計）」は75%以上で、4人に3人以上を占める多数派であることがわかりました。また「とてもそう思う」と答えた人はフランス、ドイツで25%以上、スウェーデンでは80%以上に上りました。

また、日本について過去の調査結果を見ると、2010年に「そう思う（計）」と答えた人は52.6%で過半数を占めていました。しかしその後の10年間で大きく減少した一方、「そう思わない（計）」と答えた人が15ポイント以上も増加し、日本が子どもを生き育てやすい国ではないと思う人が増えていることがうかがえます。

子どもを生き育てやすい国だと思うか（4カ国比較、2020年）



子どもを生き育てやすい国だと思うか（日本）



* 出典 内閣府 子ども・子育て本部：令和2年度「少子化社会に関する国際意識調査」報告書（概要版）

https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13024511/www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/r02/kokusai/pdf_g-index.html

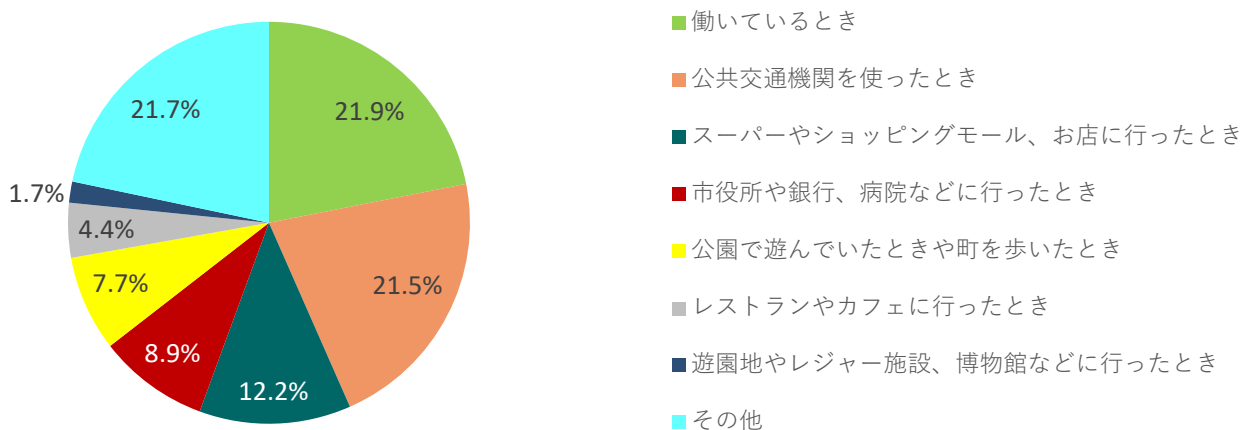
こども連れで不便、理解や配慮が欲しいと感じる場面

「働いているとき」や「公共交通の利用時」など様々な場面で感じている

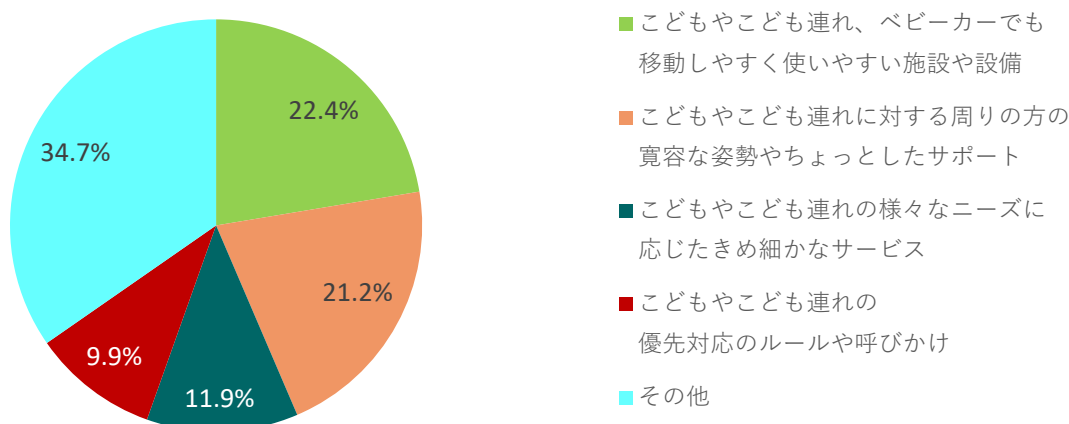
こどもと一緒にいるときに不便を感じたり、理解や配慮が欲しかった場面は？——こども家庭庁が令和5年に実施した「こども・子育てにやさしい社会づくりのためのニーズ調査」には、4,000以上の回答が寄せられました。その結果、「働いているとき（21.9%）」、「公共交通機関を使ったとき（21.5%）」がともに20%を超え、「スーパーやショッピングモール、お店に行ったとき（12.2%）」、「市役所や銀行、病院などに行ったとき（8.9%）」が続きました。

また、「周りから欲しかった理解や配慮の内容」を見ると、「こどもやこども連れ、ベビーカーでも移動しやすく使いやすい施設や設備（22.4%）」と「こどもやこども連れに対する周りの方の寛容な姿勢やちょっとしたサポート（21.2%）」がそれぞれ20%を超える結果となりました。そして「その他」も30%以上に上り、周りから欲しい理解や配慮の内容が多様であることがわかります。

こどもと一緒にいるときに不便を感じたり、理解や配慮が欲しかった場面（全4,455件）



周りから欲しかった理解や配慮の内容（全4,215件）



* 出典 こども家庭庁：こども・子育てにやさしい社会づくりのためのニーズ調査2023
<https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo-mannaka>

次頁以降では、現在のこども・子育てにまつわる課題を解決するために、我が国が示した「こども未来戦略」と「こども大綱」についてご紹介します。

こども未来戦略 [令和5（2023）年12月22日閣議決定]

II. こども・子育て政策の強化：3つの基本理念

1. こども・子育て政策の課題
 - (1) 若い世代が結婚・子育ての将来願望を描けない
 - (2) 子育てしづらい社会環境や子育てと両立しにくい職場環境がある
 - (3) 子育ての経済的・精神的負担感や子育て世帯の不公平感が存在する
2. 3つの基本理念
 - (1) 若い世代の所得を増やす
 - (2) **社会全体の構造・意識を変える**
 - (3) 全てのこども・子育て世帯を切れ目なく支援する

III. 「加速化プラン」～今後3年間の集中的な取組～

1. 「加速化プラン」において実施する具体的な施策
 - (1) ライフステージを通じた子育てに係る経済的支援の強化や若い世代の所得向上に向けた取組
 - (2) 全てのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充
 - (3) 共働き・共育での推進
 - (4) **こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革**
2. 「加速化プラン」を支える安定的な財源の確保
3. こども・子育て予算倍増に向けた大枠

加速化プランの取組の中で生まれた「こどもまんなかアクション」

加速化プランの4つ目の施策「こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革」は、こども・子育て政策を実効あるものとするために、こどもや子育て中の方々が気兼ねなく様々な制度や支援メニューを利用できるよう、地域社会、企業など様々な場で、年齢、性別を問わず、全ての人がこどもや子育て中の方々に応援するといった社会全体の意識改革を進めることを目的としています。

そしてこの施策のひとつとして、令和5（2023）年5月に「こどもまんなかアクション」がスタートしました。こどもたちのために何がもっともよいことを常に考え、こどもたちが健やかで幸せに成長できる社会を実現するという「こどもまんなか」の趣旨に賛同する企業・個人・地方自治体などに「こどもまんなか応援サポーター」となってもらい、「今日からできること」を実践し、取組んだ内容を自らSNSなどで発信してもらっています。この「こどもまんなかアクション」の取組に加え、こども・子育てを応援する様々な取組事例の共有などにより、こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革を目指していきます。

こども大綱 [令和5（2023）年12月22日閣議決定]

第4 こども施策を推進するために必要な事項

- 2 こども施策の共通の基盤となる取組
 - (5) **こども・若者、子育てにやさしい社会づくりのための意識改革**

「こども大綱（令和5年12月22日閣議決定）抜粋」

こどもや若者、子育て当事者が気兼ねなく様々な制度や支援メニューを利用できるよう、地域社会、企業など様々な場で、年齢、性別を問わず、全ての人がこどもや子育て中の方々に応援するといった社会全体の意識改革として「こどもまんなかアクション」を進めていきます。子育て当事者がこどもと一緒にいるときに感じた不便や周囲に求める理解や配慮に関する調査結果を踏まえ、国の施設や他の公共施設、民間施設におけるこどもや子育て家庭を優先して受け付ける取組やこども・子育てを応援する地域や企業の好事例の共有・横展開、公共交通機関等における妊産婦や乳幼児を連れた家庭に対する分かりやすい案内や妊産婦や乳幼児を連れた家庭への配慮に関する利用者の理解・協力の促進など、様々な取組を通じてこどもや子育て当事者を社会全体で支える気運を醸成していきます。

第 2 章

こども家庭庁が取り組む こどもまんなか アクション

Contents

こどもまんなかアクション	7
こどもまんなか応援サポーター	8
こどもまんなかアクションの様々な取組	9

※こどもまんなかアクションに関する
こども家庭庁ウェブサイトはこちら

こども
まんなか



こどもまんなかアクション

こども・子育てにやさしい社会づくりを目指す「こどもまんなかアクション」

こどもまんなかアクションとは、こども未来戦略の加速化プラン「こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革」を目指す施策のひとつとして、全ての人がかどもや子育て中の方々を応援するといった社会全体の意識改革を進めることを目的として、取組が進められています。

「こどもまんなかアクション」の「こどもまんなか」の趣旨（右図参照）に賛同する「こどもまんなか応援サポーター」自らがアクションに取組み、その情報を発信いただくことに加えて、その内容をこども家庭庁としても公式LINEなどを通じて発信します。そしてこの活動を柱に全国で自治体主催の「リレーシンポジウム」を開催するほか、応援サポーターとの活動連携や意見交換、「授乳室、おむつ替えスペース、こどもファスト・トラック等の設置」や「ベビーカーが通りやすい通路の確保」等、公共の場でのこどもや子育て当事者のみなさまへの思いやりや配慮がなされるような取組をサポーターのみなさまと一緒に進めております。

すべてのこどもや若者たちが
幸せに暮らせるように、
常にこどもや若者の今と
これからにとって
最もよいことは何かを考え、
社会全体で支えていくこと。



これまでの「こどもまんなかアクション」の歩み

現在の「こどもまんなかアクション」につながる取組のはじまりは、こども家庭庁が令和5（2023）年5月2日に「こどもまんなか応援サポーター」の取組の発表を行ったことでした。「こどもまんなか」に向けた自発的なアクションに取組み、その内容をSNS等で「#こどもまんなかやってみた」を付けて発信するよう企業や個人、自治体などに広く呼びかけました。その後、こどもまんなか応援サポーターの数は増加を続け、36道府県、282の市区町村、1,452の団体・企業・個人が参加しています〔令和6（2024）年7月8日現在〕。

令和5（2023）年 5月	「こどもまんなか応援サポーター」取組スタート
7月	「こどもまんなかアクション」の本格始動
8月	「こどもまんなかアクション公式LINE」の開設
9月	「こどもまんなか応援サポーター」事例の発信開始
10月	「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムを初開催（令和6年3月までに全国11ヵ所で開催）
11月	「秋のこどもまんなか月間」開始 「こどもや子育てにやさしい社会づくりのためのニーズ調査2023」結果公表 「こどもまんなかアワード」発表 「こどもまんなか応援サポーター」とのアクション連携
令和6（2024）年 5月	「春のこどもまんなか月間」の実施 「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムを15ヵ所程度順次開催予定（令和7年3月まで）

こどもまんなか応援サポーター

こどもまんなかアクションを広げる「こどもまんなか応援サポーター」

「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、自身が考える「こどもまんなか」なアクションを自ら実行することと発信に取り組んでいただける個人、団体・企業、自治体等を、「こどもまんなか応援サポーター」と呼んでいます。

こどもまんなか応援サポーターに参加するために、申請や届出などの手続きは必要ありません。こどもまんなかの趣旨に賛同し、今日からできる身近な「こどもまんなか」なアクションを実行し、SNSで「#こどもまんなかやってみた」を付けて発信いただくだけで、こどもまんなか応援サポーターとなります。



「こどもまんなか応援サポーター」参加の流れ

- ① 「こどもまんなか」の趣旨に賛同する
- ② サポーター自身が考える「こどもまんなか」なアクションを実行する
こども・若者に意見を聴き尊重したうえで何ができるのか、その答えは様々で、正解はありません。それぞれにできる、こどもまんなかに向けたアクションをぜひお願いします。
- ③ ご自身・団体のアクションを発信したり、地域社会に広く参加を呼びかけたりする
SNS (X、Instagram等) やYouTube上でそれぞれのアクションを「#こどもまんなかやってみた」を付けて発信したり、ハッシュタグ付き投稿を「いいね」するなど、ご協力をお願いいたします。

こどもまんなかマーク

こどもまんなかマークは、個人、企業・団体、自治体等が、こどもまんなかアクションの趣旨への賛同の意思を表明するためのものです。令和5（2023）年6月に実施した国民の皆様からの一般投票により決定しました。こどもまんなか応援サポーターの方が実践するアクションを発信する際などに、使用することができます。

こども
まんなか

※こどもまんなかマークに関する
こども家庭庁ウェブサイトはこちら



こどもまんなかマークは、文字に様々な色を使うことで、こどもの多様性や個性を表し、多くの人の思いやアクションがあることを表現しています。

こどもまんなかアクションの様々な取組

「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム

こどもや子育て世代にやさしい社会づくりを推進する取組が全国に広がるよう、自治体が主体となり、「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムを開催します。

令和5（2023）年10月30日に和歌山県で行ったシンポジウムを皮切りに、令和5年度は神奈川県、岡山県奈義町、埼玉県、北九州市、北海道、愛媛県、福山市、大分県、福井県、栃木市の計11ヵ所で開催いたしました。

これまでのシンポジウムでは、こども家庭庁や自治体の担当者などによる基調講演のほか、こどもや子育て世代にやさしい社会づくりをテーマにしたパネルディスカッションや事例の発表などが行われてきました。

令和6（2024）年度は、山形県、前橋市など15ヵ所程度で順次開催する予定です。



こどもまんなか応援サポーターとの連携

こどもまんなか月間や夏休み期間など、応援サポーターと連携した取組を積極的に行っています。



こども基本法を楽しく伝える！

「ファミマこども食堂」に職員が参加しました。（東京都板橋区）



デジタルテクノロジーを使ってチャレンジできる居場所

「ハイラボ」のワークショップに職員が参加しました。（秋田県五城目町）

こどもまんなかアクション公式LINE

こどもまんなかアクションの公式LINEアカウントでは、子育てを応援する様々な情報をご覧いただけます。公式LINEアカウントの友だち登録者数は現在、3万人を超えています。



次章では、こどもまんなか応援サポーターが中心となって行われている「こどもまんなかアクション」の代表的な事例をご紹介します。

第 3 章

こどもまんなか アクション の事例

Contents

居場所づくり・こども食堂	11
インクルーシブ社会	13
こども・子育て応援	14
こども・若者主体のアクション	16
体験型等こどもの育ち応援	18
共働き・子育て	20
こどもまんなか応援サポーターとの連携	21

※こどもまんなかアクションに関する
こども家庭庁ウェブサイトはこちら

こども
まんなか



こどもまんなかアクションの事例①

居場所づくり・こども食堂(1)

中高生の居場所 ゆあぷれ (うみのこてらす/徳島県牟岐町)

中高生を中心とした、誰もが気軽に立ち寄れる“町のおばあちゃんの家”のような居場所です。

安心安全に思い思いに過ごしながら、何かやってみたいことに挑戦したり、多様な人と繋がれたりする、そんな場所です。ご飯を一緒に作って食べることもあります。

長期休みになったら、ななめの関係の大学生も遊びに来てくれることもあり、こどもたちにとって、豊かな出会いになればと思っています。

開所時間：日曜日 13:30-16:00

活動実績：利用延べ人数約 500人



中高生が気軽に立ち寄り、自由に過ごせる
たまり場です!(小学生も可)



- おしゃべり
- 一人であったり
- 友達とゲーム・ボードゲーム
- 自習(質問も!)
- 料理・お菓子作り
- 大学生スタッフに進路相談などなど



気軽にきてね♪



うむまえ・うむとき・うんだあと (NPO法人WooMoo/神奈川県横浜市)

NPO法人WooMooは、あらゆる世代の女性がいきいきと生涯を送ることができる社会づくりを目指していきいたいという思いから、2011年に設立致しました。運営母体である「みやした助産院」をベースに、横浜市認可小規模保育園、横浜市補助事業 親と子のつどいの広場、小学生以上のこどもの居場所事業を運営しております。

うむまえ、うむとき、うんだあと。

どのステージにおいても自分らしく前向きな気持ちで子育てできるよう、お母さんたちと一緒に伴走していきいたいと思っています。

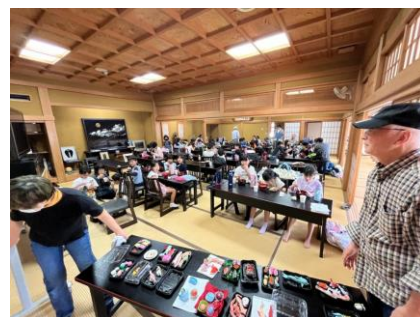


こどもまんなかアクションの事例②

居場所づくり・こども食堂(2)

リアルてらこや (らいむぎハウス/東京都羽村市)

コロナウイルス感染症による緊急事態宣言がつづく中、厳しい経済状況のご家庭が増え、教育格差問題も切実になりました。さらに行き場をなくした子どもたちを目の当たりにしたことにより、2021年7月からこの活動が始まりました。毎月第2土曜日の午前中に子どもたちの居場所づくり、学習支援と、こども食堂をメインに「リアルてらこや」を開室してきました。活動する中でお母さんが抱える悩みをゆっくり話せる場所をつくりたいと、「くれよんの会」を立ち上げ、月に2回場を設けています。活動も3年目を迎え、不登校の子どもたちが来やすいよう平日の「リアルてらこや」の開室も始めました。地域の方々との交流を通して、すべての子どもたちがありのままの自分でいられる居場所を目指しています。



放課後等デイサービス (英株式会社 あそび場りのぼの/広島県福山市)

子ども達には十人十色の個性や可能性があり、“発達障害”とされる様々な特性も、その子の色なのだとは私たちが考えています。そして、様々な経験・体験(=あそび)を通じた子ども達の「やってみたい」「これ好き」から得意や“輝ける場所”を一緒に探し、そこにスポットライトを当てるようにして、その子の個性や能力を一緒に伸ばしていくことが私たちの使命であると考えます。こどもは素直で、小さなこと一つでも自分の輝ける場所が見つければ、自信が持ててどんどん前向きになっていけるはずです。

私たちとの時間によって、発達障害という言葉が「個性をしっかりと持つことが出来てよかった」とポジティブな発想につながるよう、これからも子ども達や保護者の方と関わっていきたいと思います。



こどもまんなかアクションの事例③ インクルーシブ社会

インクルーシブチェア企画（B.LEAGUE／東京都）

スポーツ観戦においては、長時間抱っこしていることが肉体的に厳しかったり、兄弟連れの場合は物理的に手が足りないことも。インクルーシブチェア企画では、身体障がいのある乳幼児の「座る」に関するニーズをベースに開発された、体幹の弱い子どもでも安定して座ることができるポータブルチェアを活用。このチェアを一般席エリアに設置した「サテライトオフィスシート」へご家族を招待し観戦いただきました。

<実施日> 2023年5月27日（土）、28日（日）

<対象> 障がいのある乳幼児とご家族、健常の乳幼児とご家族

結果、小さな子どもが安心して座れるだけでなく、親御様に物理的な余裕も生まれ、より試合に熱中できるシーンが増えました。また、一般席にて周りの人たちと同じ目線での観戦ができるようになり、障がいの壁を超えて体験を共有しあえる空間もつくることができました。アルバルク東京のホームゲーム会場では、シーズンを通してこちらのポータブルチェアの貸し出しを行っています。是非アクセスして体験してみてください！



インクルーシブ保育事業「クオーレ」（社会福祉法人 藹藹会／栃木県宇都宮市）

クオーレは「24の瞳が輝く子どもたちのセカンドハウス」をコンセプトとする0歳～2歳を対象とした小規模の保育園です。12名定員のうち、半数の6名まで肢体不自由児をお預かりしています。クオーレは、栃木県宇都宮市にある学校法人、社会福祉法人、一般社団法人で構成するEducarealize Groupに所属しています。教育と福祉を融合することで、地域社会に新しい価値を生み出すというグループの理念を具現化したシンボリックな場となっています。幼稚園や保育園、学童、障がい者支援施設との交流や自然溢れる里山といったグループの資源を活用し豊かな体験と本当の意味でのインクルーシブ教育、保育が実現されています。

グループが掲げる「やさしいまなざしに包まれるコミュニティ」というビジョンに向け、心地よい雰囲気の中で子どもたちがすくすくと育まれています。



こどもまんなかアクションの事例④ こども・子育て応援(1)

子育て応援車（小田急電鉄株式会社／東京都・神奈川県）

2022年3月12日から、ベビーカーなどを抱え、電車の乗り降りにも苦勞されているお客さまや、赤ちゃんが突然泣き出したりした際にも、気兼ねなく安心して小田急線をご利用いただきたいという思いから「小田急の子育て応援車」の運用を開始しています。小田急が保有する通勤車両（一部を除く）の3号車（窓ガラスや乗降扉、貫通扉）に計24枚のステッカーを掲出しています。

「小田急の子育て応援車」はどなたでもご利用いただけるもので、ご乗車されるお客さまのご理解とご協力を得ながら、こどもたちを育む温かい空間を目指しています。2023年4月6日からは、電車内での子育てにまつわる“ほっこりエピソード”を3パターン漫画仕立てでポスターとしてご紹介、子育て応援車には3パターン全てのポスターを掲載しています。今後も、小さなお子さま連れのお客さまに、より安心して小田急線をご利用いただけるように取り組んで参ります。

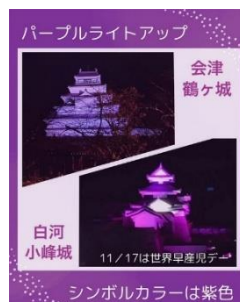


小さく生まれた赤ちゃんのご家族の交流サークル

（福島県ふくしまリトルベビーサークルNっ子ちゃん／福島県・全国（オンライン））

Nっ子ちゃんでは、早産児・低出生体重児などで新生児集中治療室（NICU）に入院した経験のあるお子さんを持つ家族が、孤立しないでつながり合えるよう【同じ境遇】の【仲間同士】で、月に一回リアルとオンラインで交互におしゃべり会を開催しています。春にはお花見をしたり、秋にはお外で遊んだり、季節の行事やレクリエーションも実施しています。お子さんの成長への不安や悩みを一人で抱えずに、励まし合いながら、みんなでお子さんの成長を喜び合えるよう楽しく活動をしています。

また、11月17日の世界早産児デーには啓発活動もしています。福島県内のお城をシンボルカラーの紫色にライトアップしたり、写真展を開催したりするなど、リトルベビーを知るきっかけになるよう毎年イベントを実施しています。リトルベビーならではの成長や、家族の悩みなどについてまだ広く知られていないため、リトルベビーとそのご家族への関わり方に理解が不足している現状があります。世界早産児デーのイベントを通してリトルベビーへの理解を深めていただけたらと思います。



こどもまんなかアクションの事例⑤ こども・子育て応援(2)

やさしい日本語と外国語で学ぶ子育て支援講座 (Pour Bébé/秋田県)

秋田県内に住む、妊娠中～乳幼児の子育て中の家族を対象とした、子育て支援講座を無料で開催しています。外国出身のかたも一緒に学べるよう、講師はやさしい日本語で話し、日本語が難しいかたには母語の通訳を準備して、イヤホンガイドを通した通訳を提供、また各講座のテキストは、日本語と母語の翻訳が見開きで見られるように作成しています。各講座では、宗教や文化を尊重しながら、日本での子育てに必要な情報提供を適切に行うとともに、不安や悩みが多い妊娠中～乳幼児期の家族が、「子育て」という共通の話題を通して違う国の家族と交流する時間を作り、孤独の解消に努めています。交流を通して多文化共生の意識の醸成や、やさしい日本語という概念を知るきっかけづくりにもなっています。また、すべての講座に父親の参加を可能としていることで、父親同士のつながりも生まれています。



フードドライブ (埼玉りそな銀行・地域デザインラボさいたま/埼玉県)

埼玉りそな銀行では、こどもの貧困問題を知った営業店従業員の声をきっかけに、フードドライブの取組を2020年12月より開始しました。

各店舗で自発的に活動が広がり、これまでに約90ヵ店で2万点を超える食料品等を地域のこども支援団体や社会福祉協議会等に寄贈してきました。取組は埼玉りそな銀行や関連会社だけに留まらず、お取引先にもお声がけし、一緒に取組を行うケースや、県のイベントに自治体と一緒にブース出展を行うケースも生まれています。

地域デザインラボさいたまでも埼玉りそな銀行と一緒に食料品等の収集に協力したり、ブース出展に参加する等、活動を盛り上げています。



こどもまんなかアクションの事例⑥

こども・若者主体のアクション(1)

こどもが運営する子ども食堂 (テラノダイドコ/山口県)

テラノダイドコは中学生が中心となって運営活動しています。年上の子が年下の子に教えながら料理をし、自分たちで作った料理をみんなで食べます。こども達が自分で料理を作れるようになるのが目標です。

食事のあとは、大学生ボランティアや大人に参加してもらい、ワークショップをしたり、音楽を楽しんだりします。この「お楽しみ会」は、世代を問わず参加できる「居場所づくり」として力を入れています。本物体験、成功体験をすることで自己肯定感を高めていけるような活動にしたいと思います。

大人は活動について「見守り」に徹することを心がけ、こども達の自主自立をサポートすることを目指しています。



お福wapi (NPO法人キリンこども応援団/大阪府泉佐野市)

フリースクールキリンのとびらに通うこども達が運営する期間限定カフェ「お福wapi」。将来、料理人になりたい！お店をもちたい！という夢を持てるようになったこども達。そんなこども達が口にした「こども達でお店をやってみたい！」という夢を実現。

私たちのカフェで私たちの幸せと温かい居場所をお福分けしたい！そんなコンセプトのもと、「お福分け」とスワヒリ語で「居場所」を表す「wapi」の2語を合わせて「お福wapi」という店名になりました。お福wapiでは、こども達が自ら調理・接客をするだけでなく、コンセプト作りやメニュー考案・試作、原価計算、仕入れ、広報、経営会議まで、職業体験以上の経営体験を得ることができました。

こども達自身の「やってみたい！」を実現したからこそ頑張れる夢への第一歩。

これからも、こども達が未来に踏み出せる居場所を創り続けていきたいと思っています。



こどもまんなかアクションの事例⑦

こども・若者主体のアクション (2)

のくにプロジェクト

(宮崎県立都城商業高等学校 共創ウェルビーイング部/宮崎県都城市)

ファーストプレイス（家）でも、セカンドプレイス（学校等）でも、サードプレイスでもない、地域のこどもたちの「ナンバーレスな居場所づくり」をしています。宮崎県がかつて観光大国だった時に多くの人でにぎわった「宮崎こどものくに」から着想を得て、プロジェクト名を「のくに」としました。地域の大人や大学生を巻き込んだ高校生主催の対話会を開き、企画を考案しています。また、経済格差から生じる「体験格差」の是正のために、地域の事業所や行政からの支援を受け、こどもたちの参加費は無料にしています。こどももおとなもみんなが「のくに」では同じフィールドで楽しめる、そんな居心地のよい場づくりを今後もしていきたいです。



子どもがつくるまち ミニきりゅう (ミニきりゅう実行委員会/群馬県桐生市)

「ミニきりゅう」は、こどもたちがつくる、こどもたちだけの、こどもたちのための仮想のまちです。参加するこどもたちは、市役所や税務署といった公共施設や、様々な製品を作る工場、飲食を提供するお店、遊びの施設といったたくさんの職業の中から好きな仕事を体験できます。仕事をすると、ミニきりゅう専用通貨（ミニル）でお給料が支払われ、まちに納税をした後、まちの中で使うことができます。働くことやお金を使うことを通して、仕事の楽しさや社会の仕組み、お金の大切さなどを遊びながら学ぶことができるイベントです。

ミニきりゅう実行委員会では、こどもたちが「ミニきりゅう」の中で、他者との交流のほか、目標の設定や達成、労働と消費といった社会的な行動を自主的に行うことを通して、自己肯定感の向上や自分たちの住むまちに対しての郷土愛の醸成に繋げることを目的としています。



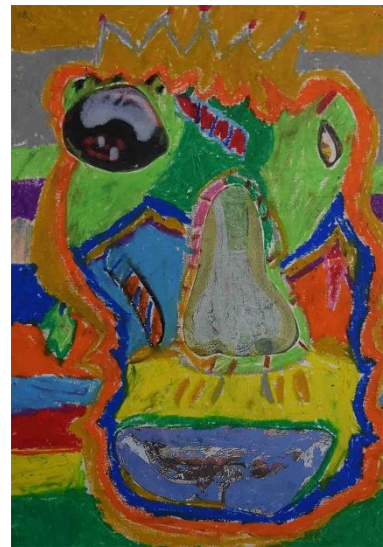
こどもまんなかアクションの事例⑧

体験型等こどもの育ち応援(1)

びはくの出前授業（豊橋市美術博物館／愛知県豊橋市）

本授業「正義の顔でふくわらい」は、当館を代表する画家である中村正義の「顔」の作品をもとに表現をするものです。正義の作品のカラーコピーから目・鼻・口を切り取ったものを用意します。こどもたちは、それを使って「ふくわらい」をします。様々な表現で描かれた目・鼻・口なので、面白く、不思議な「顔」になります。この時教室は、笑いの渦に巻き込まれます。

その後、こどもたちはその「顔」に輪郭、耳、眉毛、髪の毛、ほっぺなどを描き加え、「今までに見たことのない面白い顔」を描くことに挑戦します。色、形、塗り方を工夫しながらの制作は真剣そのものです。そして、できた作品を見せ合うのも楽しい時間です。



こども参観日（フィード・ワン株式会社／神奈川県横浜市）

フィード・ワンでは、会社と家庭のコミュニケーションの場を創出することにより、仕事と子育てを両立できる環境づくりを推進しています。その取組の一つとして、2016年より従業員のこども達を職場へ招く「こども参観日」を開催しています。「こども参観日」では、事務所や飼料工場の見学や、飼料がどのように利用されているのかわかる勉強会、フィード・ワンの飼料で育った食材を使った調理実習などを行っています。また、こども達に「働くこと」を身近に感じてもらえるよう、一日社員として社員証や名刺を授与し、従業員との名刺交換やお仕事インタビューを行っています。

参加したこども達はもちろん、その親である従業員からも「仕事についてこども達が理解する良い機会になった」と好評をいただいている取組です。



こどもまんなかアクションの事例⑨

体験型等こどもの育ち応援(2)

赤ちゃん先生プロジェクト (NPO法人ママの働き方応援隊/全国)

女性が出産後も「働く」を通じて社会と繋がっていける「場」を創り続けることをミッションに掲げて活動を展開しておりますが、その中の大きな柱の1つに「赤ちゃん先生プロジェクト」があります。

0-3歳の赤ちゃんとその母親がペアになり、教育機関や高齢者施設を訪問し、実際に赤ちゃんとのふれあいを通して「命の大切さ」や「癒し」を感じてもらおうという内容です。赤ちゃんが持つ力によって、その場にいる人が笑顔になり、赤ちゃんから沢山のことを感じてもらうプログラムとなっております。2010年兵庫から全国に広がり、累計8000回近く開催されています。

赤ちゃん先生クラスを開催していくことが各世代の問題を解決する大きなきっかけになるのではないかと考えています(少子化、孤育、いじめ、自殺、自己肯定感の低下、望まない妊娠、孤独死、高齢者の孤立)。



こども体験イベント (特定非営利活動法人モモの木/大阪府堺市)

季節の手仕事(しめ縄作り・おせち作り&餅つき・自家製のお味噌・梅干し作りなど)を通じて、こどもから大人まで地域で交流できる場を作っています。親や学校の先生以外の大人と交流し、地域の輪の中で学び体験することで生きる力を育み、こどもたちの健やかな成長を支援したいと思っています。

そのほか、こどもクッキング、クラシックコンサート、流しそうめん、野菜収穫、陶芸、こども防災講座などの様々なワークショップやイベントも随時実施しています。

モモの木には小学生のボランティアスタッフもあり、運営側として携わってもらおう企画(こどもまつり)も開催しました。2022年度体験イベントに参加したこどもは427人でした。



こどもまんなかアクションの事例⑩ 共働き・共育て

働き方改革／妊娠・育児と仕事の両立支援（伊藤忠商事／東京都港区）

【朝型勤務】2013年に20時以降の残業を原則禁止し、仕事が残っている場合には翌朝8時前に始業する「朝型勤務」を導入。早く帰宅し、翌朝効率的に仕事をする文化が定着しました。2022年に「朝型フレックスタイム制度」を導入。週2回までの在宅勤務・15時以降の早帰りを可とし、「フルタイム勤務と家庭の両立」支援を強化しています。

【健康経営】2017年「がんと仕事の両立支援」を導入。国立がん研究センターと提携し、最先端の予防・治療・職場の支援体制整備の他、万一の場合の子女育英資金を設けています。

【両立支援】2010年から事業所内託児所「I-Kids」を設置しています。2022年度には育児両立手当・妊活特別支援休暇を新設。不妊治療のクーポン提供・社外専門家への相談窓口を設置する等、新しい施策にも取り組んでいます。



男性育休取得推奨企業を対象とした「育休」と向き合うプレママ・プレパパレッスン （コンビ株式会社／全国）

第一子を迎える方の出産準備をサポートするため、定期開催しているコンビ「プレママ・プレパパレッスン」。共働きをする方、男性育休取得を推進する企業様からのご要望にお応えし「育休と向き合うプレママ・プレパパレッスン」を始めました。

育休取得経験者からのアンケートを元に、育休取得時期や育休中の過ごし方などについて、具体的な体験談をご紹介します。また、新生児と同じ重さ・大きさの赤ちゃん人形を抱っこしたり、「沐浴」「お着替え・おむつ替え」「つめ切り」「妊婦ジャケット」「ベビーグッズコーナー」「ベビーカーの走行・操作」「チャイルドシート乗せおろし」など育児を体験できるコーナーもご用意しています。



こどもまんなかアクションの事例 ⑪

こどもまんなか応援サポーターとの連携 (1)

ファミマこども食堂

こどもまんなか応援サポーターに参加いただいているファミリーマートは、こどもたちといっしょに食事をするだけでなく、いろいろな体験や世代間交流ができる「ファミマこども食堂」を、各地域の店舗で様々なスタイルで開催しています。そして令和5（2023）年11月、こども家庭庁がファミリーマートの協力を得て、「ファミマこども食堂」で、こども基本法を楽しく説明するコラボレーションを行いました。

会場のファミリーマート板橋ハッピーロード大山店には、こどもたちと保護者、ファミリーマートの担当者、こども家庭庁の職員が集まり、こどもたちは最初にファミリーマートのお仕事を体験。そしてお店が用意してくれた食事をおいしくいただいた後、こども基本法を〇×クイズ形式で楽しく学んでもらいました。こどもたちと保護者から「こども基本法」そして「こどもまんなか」を身近に感じたなど、リアルな感想をうかがうことができました。



VIVISTOP博多こどもたちのプロジェクト「究極の映画館をつくろう！」

15人のこどもたちが映画のコンセプト、シナリオづくりをゼロからスタートし、時には専門家の力も借りながら、上映する映画館までつくって上映するという8ヵ月間のプロジェクトです。

こどもたちが話し合いながら制作が進められ、令和6（2024）年2月にお披露目の上映会が開催されました。会場のVIVISTOP博多には揃いのスタッフTシャツを着たこどもたちと、映画づくりに関わった大人たちが集まりました。上映後には記者会見が行われ、「一番大変だったなと感じたことは何ですか」の質問に、こどもたちは「自分たちがおもしろいと思うものをつくるだけじゃだめで、見た人が面白いと思ってもらうためにすごく考えた」、「やってみていたシナリオを書いてみて、とても大変だったけど今までで一番達成感があった」など個人個人の思いを、とても誇らしげな表情で話してくれました。



こどもまんなかアクションの事例 ⑫

こどもまんなか応援サポーターとの連携 (2)

青稜中高SDGs部×ローソン×品川区で地域の子育て家庭を支える「しあわせ食卓事業」

品川区の青稜中学校・高等学校SDGs部とローソン、品川区が連携し、支援が必要な子育て家庭に食品や日用品をお届けする「しあわせ食卓事業」は産官学が連携して、地域社会を支えていこうという先進的な取組です。

令和6（2024）年3月の春休み、食品や日用品が学校に到着すると、SDGs部の生徒とローソン社員、品川区の職員が一緒になって、教室で箱詰めしていきます。そして無事完了すると、「しあわせ食卓事業」に申し込みされた品川区内の家庭に届けられていきました。

品川区の担当者は、食品の寄付は多いが、その仕分けや荷造りの場所の確保が課題になっていたと言います。一方、ローソンの担当者は、自治体や学生たちと一緒に活動して、地域に貢献できることは、企業にとって非常に意味があると言います。そして部活をひっぱりつづけてきたSDGs部の生徒は「地域社会に入っていくという経験は、この部活動ならではの。自治体って今までは届出を出すところぐらいのイメージしかなかったけれど、こういうコラボができるんだと知った。SDGs部でまたとない経験ができました」と話してくれました。SDGs部の生徒をはじめ、参加者のみなさんの充実した表情が印象的な取組でした。



あすいく×JTOS「駅いく」

子どもたちにとってはワクワクが止まらない特別な時間。保護者にとってはリフレッシュできるプライベートな時間。そんなステキな時間を提供し、ウェルビーイングな育児を目指した取組「駅いく」の実証実験が、令和6（2024）年3月から5月にかけて、盛岡駅、本川越駅、海老名駅、東急世田谷線で行われました。

子どもたちが楽しく安全に参加でき、保護者が安心して預けられるように、各鉄道会社が「鉄道コンテンツ」を活用し、工夫を凝らしたプログラムを提供。また、ベテラン保育士が子どもたちを上手にサポートし、子どもたちの安心を確保。子どもたちも大人も笑顔が絶えない時間を過ごしました。

